

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 ) 最終 )

呉中央中学校区 校番13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	④ 生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造	④ 「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。	授業の中で「思考し表現している」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は93%で、目標値の90%を上回っている。昨年度上半期が92%であったのでその結果をさらに上回る結果となった。 総合的な学習の時間についての「総合的な学習の時間の学習を通して、身近な人や地域、社会のために役立つことができた。」というアンケート項目に対する肯定的な回答の割合は91%で、目標値の85%を上回っている。昨年度上半期が95%であったので昨年度より低い結果となっている。 「学力調査・定期試験(国・数・英)における通過率30%以上の生徒の割合」は90%で目標値の90%を達成している。今後、さらに数値の向上を目指していく。 「各学年の家庭学習目標時間の達成率の割合」は66%で、目標値の65%を上回っている。学年によっての差が大きいことが課題である。(9年生72%, 8年生57%)	学園授業スタイルに基づいた探究的な活動や思考過程の工夫による授業改善をさらに進めるため、授業で思考・表現する場面を意図的に設定していく。 学園フェスタに向けての取組等を通して、地域に貢献しているという自尊感情や実践力をさらに高めていく。 今年度から行っている昼食準備時のQubena(タブレッドリル)タイムなどを効果的に活用し、個に応じた学習ができるように支援していく。 呉中央スタンダード(連絡ノート)や試験計画表等を活用して、教師が生徒の家庭学習の状況を把握し、適切な指導を行っていく。
**	④ 生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造	④ 「自己指導能力」を高める。	「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートについて、肯定的な回答をした生徒の割合は全体では96%となり、目標値の95%を上回っている。4つの項目のうち、「あいさつ」について肯定的な回答をした生徒の割合は93%と、目標値を下回っており、「あいさつ」が課題である。また、学年によっても大きな差があることがみとれる。 「自分には良いところがある」と思っている生徒の割合は84%で、目標値の90%を下回っている。	基本的な生活習慣に関わる指導を、あいさつに力点を置きながら、生徒の主体性を大切に、引き続き行っていく。生徒と教師の信頼関係構築や集団づくりに努め、生徒が安心して過ごせる環境をつくる。また、個人面談の機会を確保する取り組みは継続し、生徒の情報を細やかに受け取ることで、生徒とのつながりをより深めていく。 今年度も学園フェスタや学園音楽発表会等の行事が予定されているが、それに加えて異学年交流なども積極的に行い、生徒が活躍できる場を増やすことで、それを自尊感情を高める機会としていく。
*	④ 生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成	④ 基本的生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。	三点固定に関して、前年度の最終調査より3ポイント数値が向上したものの、目標値には届かなかった。塾や習い事など、早寝早起きはしにくい環境になってきていることが考えられる。また、メディアコントロールに関しても、上手くいっている生徒と上手くいっていない生徒がはっきりとわかれており、メディア依存のような状態になっている生徒も一定数いる。 8年生の新体力テストの結果、昨年度より向上した生徒の割合は男子が88%で女子が73%、男女で80%だった。男子は目標の80%より高かったが、女子は目標より下回った。運動する機会の少ない生徒の体力向上が課題と考える。	昨年度から3ポイント向上はしているの、呉中央スタンダードに記入する三点固定に関する記述を担当が細やかにチェックし、そこにコメントを入れる取り組みを継続して行っていく。また養護教諭のメディアコントロールに関する健康相談結果も引き続き活用しながら、状況の把握とそれに対する指導を連動させていく。 体育の授業導入部分での体力づくり運動を取り入れる。昼休憩ボールの貸し出しを引き続き行う。さらに、運動する機会を増やすために、クラスマッチ等を実施する。
	④ 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する	④ ・生徒と向き合う時間を確保する。 ・長時間勤務の縮減を図る。	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合が73%と目標を下回った。小中一貫教育全国サミットへの準備、学園SSR新設、学園図書室への改造など新しい業務も多く、業務の精選・時間短縮を心掛けても忙しさが勝り、十分に生徒と向き合う時間を確保している実感を持つことができていない実態がある。 時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合が65%ではあるが、月1回設けた学園一斉退校日を守ることで、退校時間を大幅に超えないように意識することができるようになった。	2学期は小中一貫教育全国サミットや学園音楽発表会、学園フェスタ等の大きな行事があるので、生徒としっかり向き合うことでより良いものを作り上げる意識をもって取り組む。 退校予定時間を設定し、計画的にかつ効率的に働けるように声を掛け合っチームで業務に取り組む。
	④ 安心・安全な学校生活の確保と信頼される学校づくりの実現	④ いじめを絶対に許さない生徒の育成を図る。	「いじめは絶対に許されない行為であると思う」という項目について、「思う」と回答する生徒の割合100%を目標としていたが、結果は98%であった。「思わない」という2%の生徒に聞いたところ、「場合による」「どんな状況でも絶対に許されないわけではない」という答えが返ってきた。この質問を受け止めたときの生徒の心の状況を把握して取組を進める必要がある。	「思わない」と回答した生徒の心の状況を把握して、個別の取組を行うとともに、思春期の不安定になりやすい心の動きを継続して見守り続ける。 現在、「いじめ撲滅キャンペーン」や「道徳の授業」での集中的な取り組みと、普段からいじめを許さない雰囲気づくりや語りかけを並行して行っているが、それらを地道に続けていく。